



町会防災本部での真剣な協議の様

この度、秋津地区自主防災会連合会(会長野本三蔵・隊友会会員)から、平成二十八年年度の防災訓練にCPX方式導入の構想があるが隊友会習志野支部に手伝ってもらえないか、との打診があり、前述の経緯も踏まえ、将来の市・県レベルでの防災CPX訓練参加の足掛かりにしたいとの思いもあり、この申し入れを受諾したものである。秋津自主防災会連合会では野本会長

場所を早々と十一月二十三日・秋津小学校体育館に定め、八月に入ると訓練の計画準備が着々と進められた。それに呼応する形で、隊友会支部においては、会員の訓練参加希望者を募りつつ、本訓練における統裁の在り方(コントロールとアドバイスの要領)の検討を始めた。九月中旬、漸く支部長以下9名(船橋市からの賛助参加1名を含む)の参加者(統裁部要員)が顔を揃え、以後、数回の準備会を重ねつつ、統裁要領を固めていった。

研究を深めた。なお、太田危機管理監には、人数の関係もあり、全般指導に併せ、自らも1個町会を担任してもらった。当日は、秋津地区連合町会各自自主防災会の防災リーダー約70人が参加し、会場内に各町会自主防災会毎に分かれて防災本部を開設、統裁部要員も予ての計画に基づき各町会防災本部に一人ずつ貼り付き、9時、訓練を開始した。実施要領の全般説明に引き続き、各町会毎、先ず十分な時間を取って、訓練の進め方について打ち合わせを行った。そして9時40分状況開始。「8時半、東京湾北部を震源とするM7.3の大地震発生」の全般想定で、以下、計画に従い、実時間に合わせて逐次に状況を付与しつつ、町内の安否確認、被害者救出救護、情報収集伝達要領について演練した。統裁部要員は、コントローラー兼アドバイザーとして、計画に基づき状況を付与する傍ら、終始、各町会防災本部の討議の中に入り、対話形式で、状況認識のポイント、判断の選択肢の是非、処置・指示の優先順位、具体的行動要領などについて、助言・誘導した。

を終えて退職した自衛隊員OBの集まりである隊友会が、自衛隊で培った知識と経験を生かして何か地域のお手伝い出来る出来ないだろうか、議論を重ねてきた。なかでも、60才過ぎた高齢者が主体をなす支部の現状では、災害現場の復旧支援など「身体」でのご奉仕は無理、「頭」でのご奉仕の道を探るべき、との意見が大勢を占め、例えば自衛隊で慣れ親しんだCPX(指揮所演習II机上訓練)のノウハウを駆使して、地域の防災訓練のお手伝いをする事が出来ないか、との有力な意見もあり、防災訓練にCPX方式を導入することは是非について習志野市の担当部署と意見交換を重ねてきた経緯がある。

要は、自衛隊でやっているような一方的な「状況付与」「決心・処置の強要」では不可、努めて和やかな対話形式の中で状況認識の共有化を図り、問答を通じて判断・処置・実行手順を懇切丁寧に導き出す、いわば「学校の先生」になろう、と一同の意識を統一して、付与状況に基づく対話の進め方、アドバイスの有り方について、真剣にシミュレーションを繰り返した。

訓練は、途中の中間研究会、最後の総合研究会を含め2時間半に及び、参加した各町会防災リーダーは勿論、統裁部要員として参加した隊友会会員にとっても、極めて中味の濃い防災訓練となったことを実感した。

# 会報 習志野隊友

## 地域防災CPX訓練を支援

去る十一月二十三日、習志野市秋津地区自主防災会連合会が行うCPX方式の防災訓練に、隊友会習志野支部は訓練統裁部として参加し、コントローラー兼アドバイザーの立場で訓練を支援し、充実した訓練結果に、参加市民の多くから感謝の言葉が寄せられた。

支部は予てから、長年の自衛隊勤務

## 特別報告 (地域防災CPX参加報告)

隊友会習志野支部

隊友会習志野支部(支部長:袖木文夫)は、平成28年11月23日、習志野市秋津地区防災会(7個町会自主防災会の連合組織)の、CPX方式による防災訓練を支援した。

支部はかねてより、自衛隊勤務の経験・知識を活かした隊友会ならではの地域奉仕の道を模索し、その一環として防災訓練にCPX方式の導入を提案してきた経緯があり、今回、秋津地区自主防災会連合会会長・野本三蔵氏(隊友会会員)の積極的企図心により実現したものである。支部としては、本CPX支援の経験を、将来の市・県レベルの防災CPX訓練参加の足掛かりにしたいとのおもひもあり、申し入れを快諾し、訓練計画作成の段階から積極的に支援した。

訓練は、秋津小学校体育館を会場として、秋津地区の各町会防災リーダー約70名が参加して行われ、巨大地震発生直後からの逐次の状況付与に基づく各町会リーダー及び地区対策本部の情報収集、判断、処置の要領について、約3時間にわたり演練した。隊友会は、支部長以下9名が統裁部要員(コントローラー兼アドバイザー)として参加し、各町会をそれぞれ分担し、状況を逐次に付与するとともに、判断、処置の一つ一つを具体的に、対話形式で誘導、助言した。なお、習志野市危機管理監・太田清彦氏(隊友会会員)には、統裁部要員の一人として参加いただくと共に、準備段階から終始を通じ助言・協力をいただいた。

訓練終了後、秋津地区各町会の訓練参加者から、「よく理解できたので、訓練に熱が入り楽しかった」「今までの防災訓練と違い、防災意識が大いに啓発させられた」「自衛隊での経験知識豊富な隊友会の方が同じ団地に住んでいると思うと心強い」などの所見が寄せられ、隊友会会員一同、この種訓練に参加の意義を改めて確認し得たことを喜びとするものである。

### CPX 訓練実施計画の骨子

- 1 訓練の目的
 

秋津地区の防災リーダー等を対象に、震災等発生時の指揮要領を訓練し防災リーダーの災害対処能力の向上を図る。
- 2 実施日時
 

平成28年11月23日 9時~12時
- 3 参加者
 

(1)秋津地区自主防災会(各町会防災リーダー等)  
(2)隊友会習志野支部
- 4 訓練実施要領
 

(1)災害想定:0830 M7.3地震。当市で震度6強  
(2)訓練の流れ
 
  - ・事前研究(0900~);担当統裁要員との擦合せ
  - ・第1状況(0940~);安否確認・被害者救出
  - ・前段検討会(1025~)
  - ・第2状況(1100~);情報収集・報告・通報
  - ・総合検討会(1135~)

### CPX 訓練統裁要領の骨子

- 1 統裁部としての目標
 

地区自主防災会のCPXを円滑に実施し、教訓事項等が導き出せるような訓練となることを目標とする。
- 2 統裁部要員の役割
 

状況付与及び防災リーダー等への助言
- 3 統裁部の編成
 

統裁部長の統制下、地区対本及び各町会防災会を統裁部要員各1名が専従で分担当
- 4 状況付与要領
 

統一計画に基づき、各統裁部要員が付与カードで付与すると共に、丁寧に所要の説明。
- 5 統裁要員の助言の基本的考え方
 

(1)決心を躊躇する際は、選択肢等の助言  
(2)指示等が曖昧な際は、質問等で要素を補充  
(3)出てきた「判断・処置」は、あくまで尊重(原案を強制しない)



災害現場(図上)に赴いての状況付与の様様

なお、この訓練参加を支部活動の一端として、千葉県隊友会に報告したところ、早速、千葉県隊友会ホームページでも紹介され、加えて隊友会中央の新聞「隊友」にも大きく取り上げ掲載され、習志野支部としては大いに面目を施した一幕であった。

訓練に参加していただいた会員の皆さん、本当にご苦勞様でした。

\*

- 本訓練参加統裁部要員(50音順)
- 伊丹紘 (船橋市)
- 稲葉秀雄 (秋津二丁目)
- 井上康隆 (谷津四丁目)
- 太田清彦 (藤崎二丁目)
- 坂本興紀 (秋津二丁目)
- 野本三蔵 (秋津二丁目)
- 日高久萬男 (奏の杜二丁目)
- 山田正二 (秋津二丁目)
- 山田文夫 (袖ヶ浦六丁目)

(関連記事 第3面・第4面参照)

### 会員の声

#### 中国の仕掛ける超限戦

先日、チャイナウオッチャーを自認する友人O君に久しぶりに会って、中国の話聞く機会を得た。その中で、中国が現代の戦争について企図する「超限戦」というおぞましい戦略方針

(2)

リーダーから、「訓練の内容が良く理解出来たので、訓練に熱が入り、楽しかった」「いざ災害という場合に何が大事か、そのために日頃やるべきことは何か、具体的に認識することが出来て、漠然と考えていた今までは違い、防災意識が大いに高まった」「具体的でポイントを衝いた指針をいただき、こんな隊友会の方が同じ団地に住んでおられると思うだけでも心強い」などといった所見が寄せられ、参加隊友会会員一同、大いに意を強くしたことがあった。

第22号 (平成29年3月20日)

それが中国の唱える「超限戦」である。一言でいえば、現代の戦争は、常識や倫理基準を超え、軍事・非軍事、合法・非合法のあらゆる手段を駆使しての総力戦だという主張である。

(会員Y記)

(3)

### お知らせなど

#### 行事等の実施・参加

○ 県護国神社例大祭ご奉仕  
十月八日、千葉県護国神社秋季例大祭に先立つ境内の清掃、「ああ特攻碑」の清掃等の奉仕、十月十日、大祭当日の交通規制、奉昇等の奉仕活動に、千葉県隊友会が参加して多くの会員が参加した。習志野支部からは毎回、山田正二会員が清掃奉仕に参加している。

○ 自衛隊殉職隊員追悼式参加  
十月三十日、陸自下志津駐屯地「鎮めの庭」にて、自衛隊殉職隊員千葉県追悼式が実施され、県隊友会長以下多くの隊友会員が参列、当支部からは袖木支部長が参加した。

○ 市秋津地区防災CPX訓練を支援  
十一月二十三日、習志野市秋津地区自主防災会連合会(会長野本三蔵氏・隊友会会員)の防災CPX訓練に、袖木支部長以下9名の隊友会会員が参加し、統裁部要員(コントローラー兼アドバイザー)として同訓練を支援した。

○ 習志野自衛隊初降下訓練  
一月八日、陸自習志野演習場における恒例の第一空挺団初降下訓練行事に、県隊友会長以下多くの隊友会員が参加した。当支部においても袖木支部長以下多くの会員及び家族が参加し、精鋭空挺団の訓練展示を堪能すると共に、隊員と共に野宴を楽しんだ。

○ 建国記念日祝賀行事  
二月十一日、千葉市民会館大ホールにおける「建国記念の日を祝う千葉県民の集い」に、例年と同じく、隊友会員の多くが参加、当支部も袖木支部長以下多くの会員が参加した。

○ 習志野部隊防衛講話  
二月十四日、習志野駐屯地で行われた予備自衛官招集訓練において、袖木支部長が防衛講話を担当した。

○ 千葉県自衛隊入隊者激励会  
三月四日、四街道市民文化センターにおいて、県自衛隊家族会連合会主催による千葉県自衛隊入隊者激励会が開催され、袖木支部長以下が参加した。

#### 行事等の今後の予定

##### 習志野駐屯地創立記念行事

陸自習志野駐屯地における同駐屯地及び第一空挺団の創立記念行事は、四月二日の予定。

について聞かされ、ショックを受けたので、紹介かたがた投稿する。周近平政権になって以降の中国の、最近の国際社会、とりわけ日本に対する傲慢無礼振りは目に余るものがあるが、何しろわが国にとっては、海を隔てて境を接する隣国である。逃げる訳にもいかない。応分の姿勢で近所付き合いをせざるを得ないが、少なくとも彼の国の戦略に呑み込まれないだけのしかりとしたハラを持つた付き合いが必要であることを改めて痛感した。GDP世界第二位を誇る中国の実体経済は、中国共産党の幹部やその子弟、軍幹部等が、国家全体の80%の資金を支配しており、民衆から搾取した資金力によって世界中の資源を買い漁っている。日本においても森林、水資源、不動産を爆買いしている。北海道で中国資本は、俱知安町の57ヘクタールが買い取られてしまった。三重県では1000ヘクタール以上が中国人に買い取られ、大阪でも10件以上の不動産の中国人による買い付け依頼がある。更に最近では、都市部で中国人の不動産爆買いが行われている模様で警戒すべき事象である。2012年には新潟県中部の土地約1500平方メートルの売買契約が中国政府と交わされたことが判明している。

ロケット打ち上げは弾道ミサイル開発のため、プルトニウム保有は核兵器製造のため「現在の日本は戦前の軍国主義復活を意図する危険な存在」と宣伝を続けている。米国と並んでアジアの大きな支柱となっている日本を貶め、中国主導の国際秩序を築く長期戦略の一環と考えるべきである。その他、中国は折りに触れ日本に対し歴史認識問題を取り上げ、南京大虐殺の問題などを利用して、国際社会において日本の好感度を低下させる宣伝活動を行っている。中国国内においても、中国各地に数多く建設された愛国教育基地を利用した反日教育は、「日本悪魔化」の国民意識を益々エスカレートさせている。そして東シナ海問題、尖閣諸島を含む一方的な防空識別圏の設定、頻繁な領海侵入、軍航空機の跳梁、日中間線の天然ガス採掘ステーション建設の拡充など、中国の横暴は目に余るものがある。とりわけ尖閣諸島では、昨年8月6日、230隻にも及ぶ大量の中国漁船が、尖閣諸島の接続水域に進入し、同時に7隻の海警船が進入した。翌7日、漁船の数は250隻に増加し、新たに2隻の中国法執行機関の船が尖閣諸島の接続水域に進入した。このまま放置すれば、なし崩し的に尖閣諸島は、中国の実効支配下におかれる事態が目に見えている。

○ 千葉県護国神社春季例大祭  
四月十日、千葉県護国神社にて開催予定。

○ 千葉県隊友会総会  
平成二十九年度千葉県隊友会総会は、四月十九日(水)、三井ガーデンホテル千葉(千葉市中央区)において開催予定。

○ 千葉県隊友会ゴルフコンペ  
五月十五日、四街道支部が幹事役となり、ムーンレイク茂原ゴルフコースにて開催予定。

○ 隊友会習志野支部総会  
六月中旬、京成津田沼駅周辺にて開催予定。

○ 習志野駐屯地夏まつり  
八月上旬、陸自習志野駐屯地にて開催予定

(関連記事第1面・第4面参照)